

# 授 業 概 要

---

Syllabus

---

2019  
【2年次】

富良野看護専門学校



### 3. 専門分野 I

フィジカルアセスメントⅡ

診療援助技術論Ⅰ

診療援助技術論Ⅱ

臨床看護総論



教 科 目 名	フィジカルアセスメントⅡ	単位数(時間数)	1 単位・30 時間
担 当 者	鈴木 恭子	講義学年・学期	2 年次・前期

キーワード	観察・身体診察(問診、視診、聴診、触診、打診) 看護判断(優先順位の決定) フィジカルなデータ 人体の構造と機能
学習目標 (授業の位置づけ)	この単元は解剖生理学、病態治療学、共通看護技術論Ⅰ～Ⅱ、日常生活援助技術論Ⅰ～Ⅲ、フィジカルアセスメントⅠをベースとして位置づける科目である。  目的;看護に活用するフィジカルアセスメントの知識を深め、看護実践力の基盤となる判断力を養う。 目標 1. 患者のフィジカルなデータを看護に活用する意義とその視点について理解する。 2. 健康問題をアセスメントするための問診や身体診察につながるプロセスを理解する。 3. 根拠に基づく身体機能別フィジカルアセスメントの方法を理解し、身体診察を実施できる。 4. 問診、身体診察技術の活用を通し、看護ヘルスアセスメントの視点と方法を理解し、看護実践の見通しを持つことができる。
授業の形式	講義ならびに演習
成績評価の方法	演習の参加態度や課題の状況、出席状況、学科試験によって評価を行う。
教科書・参考書	系統看護学講座「解剖生理学」人体の構造と機能【1】 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 必要時プリント配布
メッセージ	近代医療の変化に伴う患者のニーズの向上により、質の高いケアが現在の看護師には強く求められています。また、医師の指示に応じて動くばかりではなく、看護師自身が患者の状態を捉えて対応する能力が求められています。 この単元では、解剖生理学、病態治療学で学習した知識を活用し、患者の身体状況を観察・判断し、看護判断や看護ケアにいかせる基礎的能力を身につけていきたいと考えています。看護師が患者の身体状況を診るということは「対話能力」も要求されます。見る、聴く、触ることを組み合わせながら患者の話を聞いていく(問診)能力も身につけていきます。

回	授業主題	授 業 内 容	講師
1 2	フィジカル アセスメント総論	1. ヘルスアセスメントの概念 2. フィジカルアセスメントとは 3. フィジカルイグザミネーションとは	鈴木 恭子
3 4 5 6 7 8	フィジカル アセスメントの方法	1. 呼吸器系の診察技術 2. 循環器系の診察技術 3. 消化器系の診察技術 4. 脳神経系の診察技術 5. 骨・筋肉・関節の診察技術 6. 感覚器・皮膚・リンパの診察技術	
9 10 11 12 13 14 15 (0.5)	フィジカルアセスメント 演習	1. フィジカルアセスメントの実際 *呼吸器・循環器・消化器系の フィジカルイグザミネーションの実際  2. 事例患者のフィジカルアセスメント *グループに分かれて、課題演習を実施する。 *観察・身体診察の結果をまとめて看護の方向性 を導き出す(レポートにまとめる)。 *その結果を最後の授業で、グループ単位で発 表し、意見交換を行う。  ー演習;事例を用いた身体診断のプロセサー 簡潔な事例(別紙)に基づき、観察する技術の理 解 ・ 何が起きているのか、事象の意味を考える ・ 観察する部位はどこか ・ その優先順位はどうか ・ その観察方法(技術)はどうか	鈴木 恭子
15	学科試験		

教 科 目 名	診療援助技術論 I (診察・検査、救急法)	単位数 (時間数)	1 単位 (15時間)
担 当 者	和田 浩幸、救急救命士	講義学年・学期	2 年次・前期

キーワード	診察(問診/視診/聴診/打診/触診)、生体・検体検査、洗浄法 応急・救命・救急手当、心肺蘇生法{気道確保/人工呼吸/心臓マッサージ/除細動(AED)}、止血法、
学習目標 (授業の位置づけ)	健康障害をもつ対象を理解するために診察・検査、救急法における看護の役割を早期に学習し、実習との連動のなかで効果的な学習に繋げる。  目的； 診察・検査、救急法における看護の役割を理解するとともに、看護実践のための基礎的技術を習得する。 目標1. 血液検査、尿検査、便検査、喀痰検査について理解し、それぞれの検査時の看護の実際を学ぶ。 2. 生体情報のモニタリングの意識と看護の役割を理解する。 3. 心電図検査、心電図モニター、SpO <sub>2</sub> モニター、血管留置カテーテルモニターについて理解し、看護の実際を学ぶ。 4. 診察の介助の目的を理解する。 5. 胃洗浄、膀胱洗浄の方法と実施の留意点を学ぶ。 6. 救急法の基礎知識を理解する。 7. 気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫の方法と留意点を学ぶ。 8. AEDを用いた除細動のしかたを学ぶ 9. 止血法の種類とその方法について学ぶ。
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験 * 授業参加態度・課題を評価に含む場合もある。
教科書・参考書	系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 II」 基礎看護学【3】 医学書院
メッセージ	検体検査や生体情報のモニタリングは、原則として医師の指示に基づいて行われ、得られた情報は、医師による健康状態の判断・疾病の診断・治療方針の選択・治療効果の確認のために利用される。看護師は、適切な方法によって検体採取をし、生体情報のモニタリングをするとともに、異常の早期発見を行い、医師に報告する。 また、診察・検査を受ける患者には、大きな不安や苦痛が生じることが予測されます。医療現場の臨床検査部門では多くの関連職種がチームとして協働していますが、看護師はその患者の最も身近な存在となるため、患者の不安や苦痛を取り除き、診察・検査がスムーズに行えるよう援助し、体への侵襲が大きい検査などでは、もとの生活に復帰できるような援助が求められることとなります。医療現場のなかで有病者に最も近く存在する看護師には、救命救急の処置を必要とする患者に遭遇する機会が他の職種よりも多いと思われ、迅速で適切な対応が求められます。これらの援助においては、患者やその家族への精神的側面への配慮も必要となるため、説明や指導技術も視野に入れた看護の役割を学習していきます。

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1 2	症状・生体機能管理 技術	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2. 検体検査 1) 尿検査 2) 便検査 3) 喀痰検査 3. 生体情報のモニタリング 1) 心電図検査 2) 心電図モニター 3) パルスオキシメーター	和田 浩幸
3 4	診察・検査・処置の 介助技術	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助 1) X線撮影 2) コンピュータ断層撮影(CT) 3) 磁気共鳴画像(MRI) 4) 内視鏡検査 5) 超音波検査 6) 肺機能検査 7) 核医学検査 8) 穿刺  2. 洗浄 1) 胃洗浄 2) 膀胱洗浄	和田 浩幸
5 6 7	救急法	1. 救命救急処置の基礎知識 1) 救急対応の考え方 2) 急変時における初期対応 3) トリアージ 2. 心肺蘇生法 1) 心肺蘇生法の基礎知識 2) 一次救命処置の基礎知識 3) 小児・乳児の心肺蘇生 4) 二次救命処置について 3. 止血法	救急救命士
8	学科試験		



教 科 目 名	診療援助技術論Ⅱ（治療・処置）	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	井上 量子 長尾 奈央子	講義学年・学期	2 年次・前期～中期

キーワード	1. 吸入法、吸引法、酸素吸入療法、与薬技術、輸血、採血、包帯法
学習目標 (授業の位置づけ)	<p>診療援助技術論Ⅰとの関連を活かし、現在の看護師に求められる治療・処置に関する技術の習得に向け、2年次早期からの授業展開とし、実習との関連のなかで効果的な学習に繋げる。</p> <p>目的；治療・処置における看護の役割を理解するとともに、看護実践のための基礎的技術を習得する。</p> <p>目標1. 治療・処置における看護の役割を理解する。  2. 呼吸管理に必要な知識と技術を理解する。  3. 薬物療法の意義と目的を理解する。  4. 各種与薬に関する方法と留意点を学ぶ。  5. 注射に関する基本的事項を学ぶ。  6. 各種注射法とその留意点を学ぶ。  7. 輸血の基本的事項を学ぶ。  8. 静脈血採血の方法を学ぶ。  9. 包帯法の基礎知識を理解する。</p>
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を主に展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験 * 授業参加態度・課題を評価に含む場合もある。
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ 「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学【3】 医学書院  看護技術がみえる①基礎看護技術 メディックメディカ  看護技術がみえる②臨床看護技術 メディックメディカ</p>
メッセージ	<p>与薬は、医師により患者の治療方針が決定され、医師の指示に基づいた薬物が安全かつ確実に投与されることで効果が得られる。与薬にあたっては患者・家族に医師から説明がなされ、同意が得られていることが必要である。看護師は医師に指示された薬剤を正しく与薬する義務がある。</p> <p>また、与薬後は患者を観察し、使用する薬剤の作用・副作用・期待される効果を正しく理解する必要がある。</p> <p>正常に呼吸することを日常生活で意識することは少ない。しかし、何らかの原因で呼吸が正常に行えない状態が生じると、活動範囲が狭められるだけでなく、苦痛・不安が生じ、生命さえも脅かされる。呼吸状態を改善し、整える技術は、そのような状態の患者の安楽、生活の質の改善、生命の維持に直結する技術である。看護師は、呼吸・循環を整える知識と技術身につける必要がある。</p> <p>(静脈血採血は、診療援助技術論Ⅰにて述べている)</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講師
1 2 3	与薬の技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与薬に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物療法の理解</li> <li>・薬物療法の看護師の役割・患者の援助</li> </ul> </li> <li>2. 経口与薬法</li> <li>3. 外用薬の皮膚・粘膜適用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内与薬法</li> <li>・直腸内与薬法</li> <li>・皮膚用製剤の塗布、貼付</li> <li>・点眼、点入法</li> <li>・吸入法</li> </ul> </li> </ol>	井上 量子
4 5 6	呼吸・循環を整える技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸の意義とアセスメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸の意義としくみ</li> <li>・呼吸状態のアセスメントと呼吸を整える援助の基本</li> </ul> </li> <li>2. 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法</li> <li>3. 気道分泌物の排出の援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体位ドレナージ、スクイーピング</li> <li>・一時的吸引</li> </ul> </li> <li>4. 酸素吸入療法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・酸素吸入療法の概要</li> <li>・酸素吸入療法の方法</li> </ul> </li> <li>5. 胸腔ドレナージ</li> <li>6. 人工呼吸療法</li> </ol>	
7	輸血管理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 援助の基礎知識</li> <li>2. 輸血の実際</li> </ol>	長尾 奈央子
8 9 10 11 12 13 14	注射による与薬法 静脈血採血	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 注射法の目的と適応</li> <li>2. 各注射法に関する基礎知識</li> </ol> <p>*技術演習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 薬剤の準備</li> <li>2) 静脈内注射</li> <li>3) 筋肉内注射</li> <li>4) 真空管を用いた採血</li> </ol>	長尾 奈央子
15 (0.5)	包帯法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 援助の基礎知識</li> <li>2. 援助の実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻軸帯の巻き方</li> <li>・三角巾を用いた上肢の固定方法</li> </ul> </li> </ol>	長尾 奈央子
15	学科試験		

教 科 目 名	臨床看護総論	単位数(時間数)	1 単位 (30時間)
担 当 者	山崎 麻美 井上 量子	講義学年・学期	2 年次・前期

キーワード	ヘンダーソンの考えに基づいた対象理解 アセスメント 全体像の描写 看護問題の明確化 看護計画の立案 実施 評価
学習目標 (授業の位置づけ)	看護過程の展開方法について既習の学習を踏まえて事例展開し、その後の臨地実習を効果的に学習できるよう、2年次前期の授業展開とする。  目的;科学的な問題解決思考に基づいた看護過程の実際を学ぶ。 目標1. 情報の収集とその情報の必要性を理解することができる。 2. 情報を活用したアセスメントをすることができる。 3. アセスメントの結果から対象の全体像を描くことができる。 4. 看護問題を明確にすることができる。 5. 看護問題を解決するための具体的な計画を立案することができる。
授業の形式	事例を基に、講義ならびに課題学習と演習を主に展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、授業参加態度、提出物、レポート
教科書・参考書	系統看護学講座 専門Ⅰ「基礎看護技術Ⅰ」基礎看護学【2】 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ「臨床看護総論」基礎看護学【4】 医学書院 「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」ヌーヴェルヒロカワ *解剖生理学、病理学等
メッセージ	看護は看護を受ける対象の状況により、様々なかたちに変化する性質を持っています。ヘンダーソンは「看護師の独自の機能は、病人であれ健康人であれ各人が、健康あるいは健康の回復(あるいは平和な死)の一助となるような生活行動を行うのを援助することである」と述べています。 健康問題を抱える対象のよりよい成果を期待するには、対象のその時々状況を観察し、その情報の意味するものを考え、実践する方法を導き出す科学的な意味づけを持った看護のプロセスが必要です。そのために直感や経験だけで実践するのではなく、科学的根拠を踏まえた問題解決思考を習得する必要があります。1年次に人体の構造や機能、疾病などをはじめとした看護に必要な様々な知識を学習しましたね。それらの知識を実際に看護として統合的に活用する学習がこの授業です。 この科目では、その看護過程の展開方法について、既習の学習を基に事例を活用した対象理解と看護実践の具体的方法を学びます。 また学習した内容を他者に伝える技術を養ってもらい授業展開にします。

回	授業主題	授業内容	講師
1	看護過程とは	1. 問題解決思考と人間対人間の相互関係 2. 看護過程の5つのプロセス 3. ヘンダーソンの考えに基づいた対象理解と看護過程の展開	山崎 麻美
2	対象理解の実際	1. ヘンダーソンの考えに基づいたアセスメント 1) 14の基本的看護の構成要素の情報の抽出 2) 情報の確認・整理	山崎 麻美
3 4 5 6		1. 事例を用いた対象理解の実際 1) 情報の整理・分類 2) 情報の分析・解釈	山崎 麻美
7		1. 事例による対象の統合理解 1) 全体像の描写 ・ライフプロセス(発達段階の理解) ・生活構造の捉え ・人間の3側面の捉え ・看護問題の捉え ・看護の方向性	
8 9		1. 看護問題の明確化 ・優先順位の設定とその根拠 2. 看護目標の設定	
10 11 12	看護計画の立案	1. 看護計画立案のプロセスと留意点 2. 個別性・具体性のある看護計画の立案	井上 量子
13 14	看護における実施と評価	1. 実践内容と看護計画との関連性 2. 評価のプロセス  *看護計画と実践内容との整合性をみつけ、看護過程の必要性や重要性の理解を深める。	
15	看護過程のまとめ	1. 看護過程展開の総まとめ	